

原発攻撃 高まる市民の不安 再稼働同意は撤回を たちばなふみ市議一般質問⑤

たちばなふみ市議は、6月議会でも5項目の一般質問をしました。その内「危険性が増す原子力発電について」を報告します。

①この度の不適切事案（協力会社から依頼を受けた外部業者が身分証明書を偽造して原発構内に入構）は中電の入構者管理に甘さがあり、原発のテロ対策や安全対策が不十分であることを改めて露呈したのではと質しました。

②3月23日、広島県庄原市議会は「島根原子力発電所2号機の再稼働に反対する決議」を可決しました。決議は「本市は松江市八雲地区から6810人の避難者を受け入れることになっている。この避難計画は、自力での避難が難しい人への支援や、自然災害で避難経路が使用できない際の対応、避難所での新型コロナウイルス感染症対策など、実効性に関する課題が山積している。島根原子力発電所2号機が再稼働され、重大事

③自民党などから原子力規制委員会の審査に対して「停止中の原発の速やかな稼働」を求めて、「審査、検査の効率化で再稼働を促進すべき」との議論がされていると指摘。「規制庁には審査検査を効率化・簡略化することなく厳正な審査を引き続き求める姿勢を貫くべき」と質しました。

④ロシアによるウクライナ侵攻の中で、原発が攻撃対象となり市民の不安が渦巻いているとし、「2月15日に事前了解を表明したときから、事態は新しい局面を迎えている。『誇れるまち松江、夢の実現できる松江』と島根原発再稼働は絶対に相いれない」と、事前了解の撤回を求めました。



たちばなふみ市議

防災部佐目元昭部長は「①原子力規制委員会には中国電力に対して厳正な指導を行っていたらいい。不適切事案の発生は市民からの信頼の失



墜につながるもの。中国電力には十分に認識し肝に銘じて取り組んで戴きたい」「②再稼働の是非には様々な意見がある。県や受入先自治体と連携を密にし実効性を高めていく」「③市民の安心・安全を確保する観点から、島根2号機の設計工事計画や保安規定の審査についても原子力規制委員会による厳格な対応がされることを求めていく」「④武力攻撃への対応は新規規制による規制ではなく、国民保護法等に基づき対処される」「我が国が武力攻撃に対してどのように備えるかは国が検討すべきであり、全国原子力発電所所在市町村協議会を通じて国に要望する」と回答しました。

- ※中国電力の度重なる不祥事
- 計511カ所もの点検漏れ
- 校正記録の偽造
- 資料を誤廃棄
- サイトバンカ建物の巡視を実施していないのに実施したと偽った不正
- 原子力規制庁から貸与されていた原子力発電所のテロ対策施設に関する非公開文書を無断で廃棄、規制庁に6年間も未報告

脱原発 持続可能な社会を築く 上園 昌武氏(元島根大教授)が講演

「どうする島根原発？みんなで決める松江の会」学習会

島根原発2号機の再稼働の是非について住民投票の実施をもとめ運動した「どうする島根原発？みんなで決める松江の会」が8月3日、松江市内で学習会を開きました。

省エネと再エネ普及が不可欠

構築に向けた展望がもてず、持続可能性という観点が乏しい」と指摘しました。

化石燃料分は産油国に流れている」と指摘。地域新電力で光熱費の支払い先を地域の主体に変更し、断熱建築など省エネ設備投資も地域企業が受注すれば地域でお金がまわる」と説明しました。



エネルギー自立地域へ

上園氏は「再生可能エネルギーへの転換で、断熱改修や太陽光パネルの設置と保守・点検など新たな事業が生み出され、地域に労働人口を増加させることができ、過疎化・高齢化対策にもつながる」「低所得者が入居する公営住宅や賃貸住宅の断熱改修をすることは、エネルギー貧困をつくらない取り組みにもなる」とエネルギー自立地域の重要性を世界各地の取組みも交えて紹介しました。

島根の電力再エネ100%へ

上園氏は、島根県の脱炭素へのシナリオとして、鳥取県と比較しながら、「今の優良技術の普及でエネルギー消費量を3分の1に、エネルギー起源のCO2排出量を99%削減が可能だ」と主張。「島根の光熱費毎年2000億円。

脱炭素と生活の質向上

また、日本では気候変動対策というところ、『生活の質を脅かす』との受け止めが多数だが、世界では『生活の質を高める』との認識になっている」とし、海外の、快適性を重視した、気密性や断熱性を高めた改修の補助金で省エネにつなげている取り組みを紹介しました。

最後に、原発ゼロ地域づくりの提言に向けて、①原発ゼロのメリットを伝える（原発がなくなっても電気が足りる、電気代が安くなる、経済が発展する。生活の質が向上し、持続可能な社会を実現することになる）②脱原発と脱炭素社会は可能であることを示す（エネルギー消費の実態を把握し、重点を置く省エネ対策や地域の再エネ事業化を提案）③住民が主体となってエネルギー対話を行うとの3点を提起し、講演を結びました。



講演する上園昌武教授